

社会福祉法人和歌山ひまわり会
ひまわりこども園
2025年度事業計画

目次

●経営方針.....	3
1. こども園としての目的.....	3
2. 乳幼児の育みについて.....	3
3. 地域連携について.....	3
4. 子育て支援について.....	4
5. 職員の育成について.....	4
6. 保険・衛生管理.....	4
●中期経営計画（2024～2029）.....	5
1. 子どもの保育について重視する観点について.....	5
2. 保育実践（客観的評価としての保育環境評価スケールの活用）.....	5
3. 施設・経営.....	5
4. コロナ禍におけるリスクマネジメント.....	5
5. 職員の負担軽減.....	5
6. IT、ICT、DX.....	5
7. 保護者への発信.....	5
●重点課題.....	6
I 保育実践力の強化.....	6
1. 最重要 特別な支援が必要な子どもへの関わり方.....	6
2. 重要 AI時代において大事な非認知能力の育み方.....	6
3. 課題 自然的な発見ができる園庭への改修事業.....	7
II 安心して働き続ける職場作り.....	7
1. 事務効率化.....	7
●その他実施計画.....	8
1. 行事予定.....	8
2. 保護者に向けて.....	8
3. 地域社会との連携.....	9

●経営方針

1. こども園としての目的

- (1) 園児の健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

2. 乳幼児の育みについて

幼保連携型認定こども園保育・教育要領において定められている年齢ごとの発達に近づけるよう、それぞれの子どもの発達状況や個性を踏まえた保育を実施していく。認知能力の獲得に拘泥することなく、非認知能力の向上を目指した保育を実現する。

こどもの主体性の尊重という観点を最重要テーマとし、こどもが自ら考え、他の園児と相談・確認しながら様々な遊びに取り組んでいけるような保育を実施する。

3. 地域連携について

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の分類が5類へと緩和されたことを踏まえ、以下の点について連携を進める。

- ① 地域の老人会との交流を行っていたが次第に希薄になっていたが、今後、再開は可能か、高齢者への新型コロナウイルス以外の感染リスク等も踏まえて引き続き検討する。
- ② 年長クラスによる小学校訪問などに加え、小学校との連携を意識したカリキュラムを作成し、小学校への接続をスムーズに行えるような取り組みを進める。
- ③ 地域の中学生の体験学習の受け入れ等は再開しており、インターンシップなどさらなる交流のあり方を検討する。

4. 子育て支援について

状況を踏まえつつ、園庭の開放を引き続き検討する。子育て相談等の支援については感染症対策を実施しつつ引き続き行っていく。

5. 職員の育成について

客観的な人事評価制度の導入を進める。職員が自ら振り返り、キャリアアップにつなげられるような制度を導入する。

6. 保険・衛生管理

「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」及び市役所・保健所の感染症対策の指導に基づき、衛生管理を徹底した保育を実施する。また、学校医・薬剤師との連携を強化し園児の健康、衛生の確保を図るため、職員一丸となり取り組んで行く。

●中期経営計画（2024～2029）

1. 子どもの保育について重視する観点について

引き続き保育の質の向上を目指し、子どもの主体性を尊重した保育のあり方を職員全員で検討していく。

2. 保育実践（客観的評価としての保育環境評価スケールの活用）

保育の質について、各職員が客観的に把握してさらに改善を進められるように保育環境評価スケールを導入のうえ、評価結果を踏まえた保育を実現する。

3. 施設・経営

旧園舎部分の整理を進め、職員及び保護者が利用できる駐車場への変更を検討する。保育室での活動に必要な素材を積極的に調達する。園庭での遊びの選択肢を増やせるような道具・備品の導入を積極的に進める。

4. コロナ禍におけるリスクマネジメント

新型コロナウイルス感染症だけでなく、その他の感染症による影響が大きい現状から、こども園としての役割を果たしながら実現できるリスクマネジメントの強化を行い、園の保護者・職員への行動指針を明確にする。

5. 職員の負担軽減

保育現場の実情を踏まえつつ、削減可能な事務（児童票・要録など）については積極的に削減を行い、職員の負担を軽減する。

また、保育補助者の雇用により、保育教諭の負担軽減を図る。

園の設備についても、職員の負担の軽減につながるものの導入を進める。

6. IT、ICT、DX

今後は手書きが残っている領域などにおいて、さらにIT化による業務削減を進める。また、デジタルを子ども達の遊びの中に取り入れていく取り組みを行う。

7. 保護者への発信

ドキュメンテーションをさらに活用していく。保護者に普段の生活や行事に向けてどのように取り組んでいるかを積極的に伝え、納得感を持っていただけるようにする。重要事項説明やその他の機会において、こどもがわくわくを維持できるような環境づくりや声かけの重要性についても啓蒙活動を行う。

●重点課題

I 保育実践力の強化

内訳：最重要 特別な支援が必要な子どもへの関わり方
重要 AI時代において大事な非認知能力の育み方
課題 自発的な発見ができる園庭への改修事業

1. 最重要 特別な支援が必要な子どもへの関わり方

現状と課題

特別な支援が必要な子どもの割合が増加しており、対応に職員が必要になっている。職員だけに頼らない対応策について検討する必要がある。

取組方法

- ・こどもが落ち着いて過ごせる特別なスペースを提供する
- ・上級生による対応できるように異年齢保育を実施するなど、子どもが本音を出しやすい環境をつくる。
- ・その子だけの特別なおもちゃやぬいぐるみなど、落ち着けるものを園に置いておく。

実行計画

- ・廊下などに一人だけ入れるボックス上のスペースを作成する
- ・異年齢保育を増やし、様々な年齢の児童が交流できる機会を創出する。
- ・保護者の協力のもと、子どものお気に入りのぬいぐるみを園にて保管する。

2. 重要 AI時代において大事な非認知能力の育み方

現状と課題

ChatGPT といった LLM を活用した AI の進歩により、単純作業的な仕事や知識だけを活かした仕事は今後 AI に取って代わられる可能性が高い。そのような時代の中では、知識や計算能力といった認知能力だけではなく、認知能力を踏まえた創造性・想像性が必要だと言われている。そういった能力を発揮するには、非認知能力を育むことが非常に重要であり、当園においても、非認知能力を育むことを意識した保育・教育に取り組む必要がある。

取組方法

- ・ こどもの主体性を尊重できるよう、保育室の構成そのものを変更する。
- ・ 一斉保育活動以外の活動を徐々に増やしていく。

3. 課題 自然的な発見ができる園庭への改修事業

現状と課題

現在の園庭は、競技等を行うのに適したグラウンドと運動能力を育むのに適した運動遊具はあるものの、自然と触れあうのに適した設備は少なく、プランター、野菜袋や花壇が少々ある程度である。近隣に田んぼや畑があるため、虫などを見つけることはできるが、それを越えた自然的な発見の機会に乏しい。より自然的な設備の充実を検討する必要がある。

取組方法

こども達が道具を自由に活用できるな、物置や自然の遊具類を設置する。

実行計画

- ・ 木の板、ベンチなどの基本的な遊具を設置する。
- ・ 道具置き場を設置する。
- ・ マグネットなど、屋外でも楽しめる遊びに使える道具を設置する。
- ・ 植栽を行う。
- ・ 伐採した薪・枝を活用した遊びを提案する。

II 安心して働き続ける職場作り

1. 事務効率化

現状と課題 保育教諭として行うべき仕事量が多く、長く働きつづけたいと思えるような環境づくりが未だ十分ではない。

取組方法

- ・ 職員が負担に感じている仕事、残したいと感じている仕事を職員全員で再確認し、抽出する。
- ・ 負担に感じている仕事を廃止できるか、負担の少ない他の方法がないかを検討、実践する。
- ・ 会議前にアイスブレイクを行うなど職員同士が積極的にコミュニケ

ーションを取りやすく、心理的安全性を高めるような取り組みを推進する。

●その他実施計画

1. 行事予定

子どもの育ちを尊重した様々な行事を取り入れ下記の行事を計画的に実施する。

計画月	行 事
4月	入園式・始業式・誕生会(各月記入省略)・避難消火訓練(各月記入省略)
5月	個人懇談・歯科、内科健診
6月	交通安全教室・歯みがき指導
7月	夏祭り・夕涼み会(年長組)・プラネタリウム・水あそび(プール)・消防署
8月	立会避難訓練(水消火器)・希望保育
9月	防災センター見学(年長組)・敬老の日のお手紙
10月	運動会・秋の遠足・世界児童画展出品
11月	自由保育参観・絵画製作展・歩け歩け遠足
12月	クリスマス会・餅つき大会・四箇郷北小学校交流会
2月	生活発表会
3月	卒園式・修了式・希望保育

2. 保護者に向けて

- (1) 個人面談の実施
- (2) コドモンによるスピーディなお知らせ
- (3) クラスだより (コドモン)
- (4) コドモンを活用した積極的な写真・動画配信
- (5) ひまわりランド毎月発行 (コドモン)
- (6) 保護者への発信は紙とコドモンを効率的に活用し、日常の様子は視覚的に伝えて、保育内容については文章化してしっかりお伝えしていく。
- (8) 献立表 毎月発行 (コドモン)
- (9) きっずらんちめにゅー 毎月発行 (コドモン)

3. 地域社会との連携

地域に開かれた園を目指し、地域との関わりを積極的にもつよう努める

- ① 地域老人会との連携
- ② 近隣小学校との連携
- ③ 近隣中学校からの職場体験の受け入れ